

第4回教育委員会

令和3年3月1日
午後3時30分
中央図書館大会議室

案 件

報告第4号

携帯電話等の使用実態に関する調査報告等について

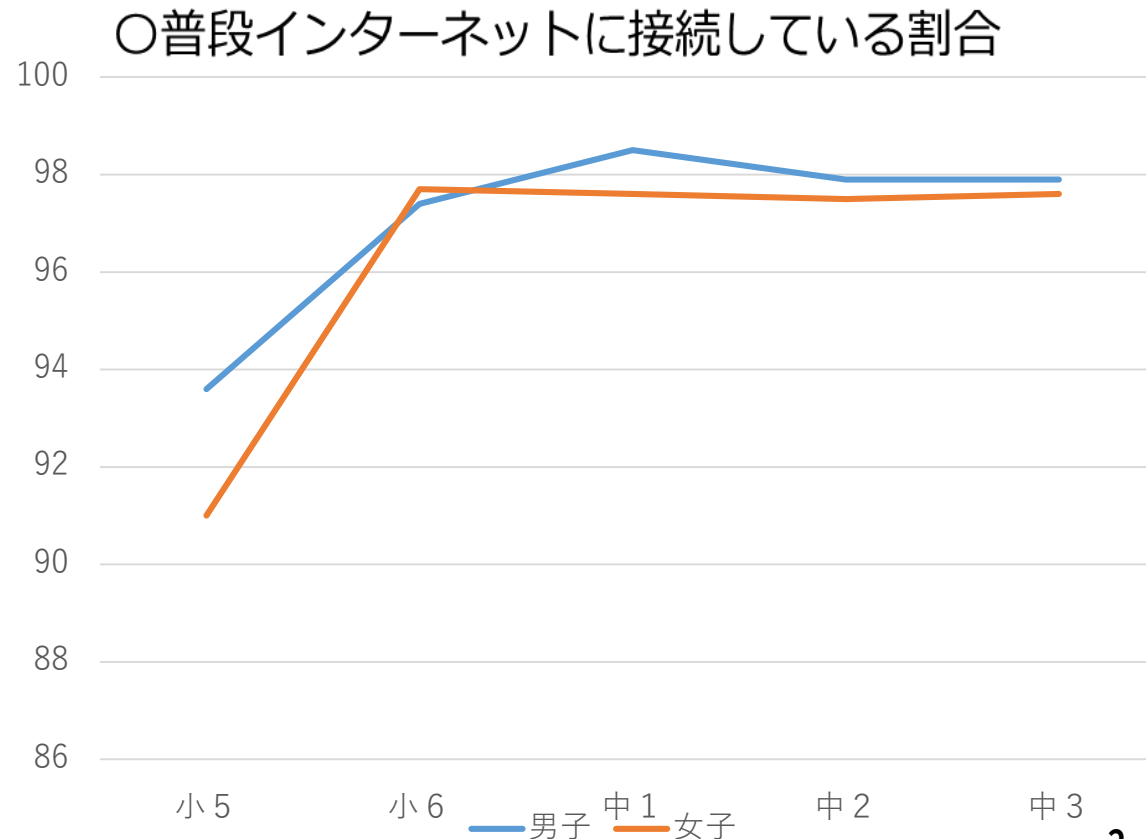
児童生徒向けアンケート調査の実施

○実施期間：令和2年7月～8月

○対象者：大阪市立小・中学校の児童生徒3,302人

(小5：361人、小6：370人、中1：676人、中2：829人、中3：1,066人)

1. 使用実態について



○一番ネットに接続する機器

男子		女子	
小5	ゲーム機	小5	スマホ
小6	ゲーム機	小6	スマホ
中1	スマホ	中1	スマホ
中2	スマホ	中2	スマホ
中3	スマホ	中3	スマホ

使用時間の比較（令和2年1月と令和2年7月）

使用しない割合

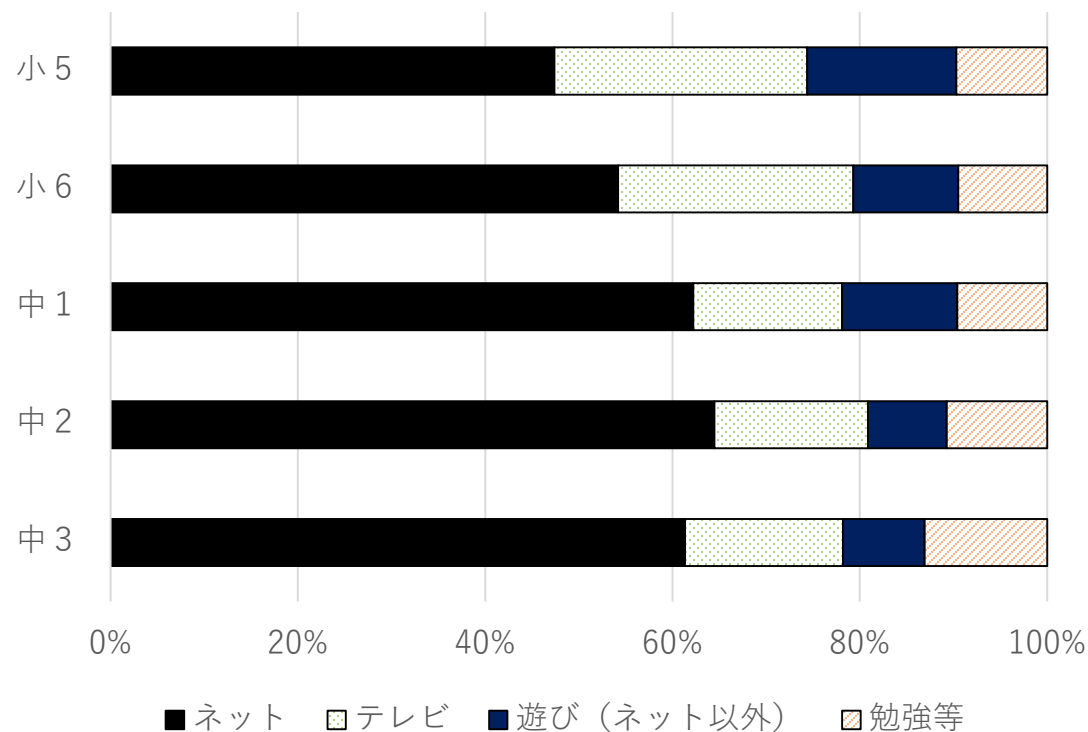
小学校：11.2%→3.4% 中学校：6.2%→2.2%

ネットを利用しない児童生徒がコロナ前とコロナ後で大きく変化している。

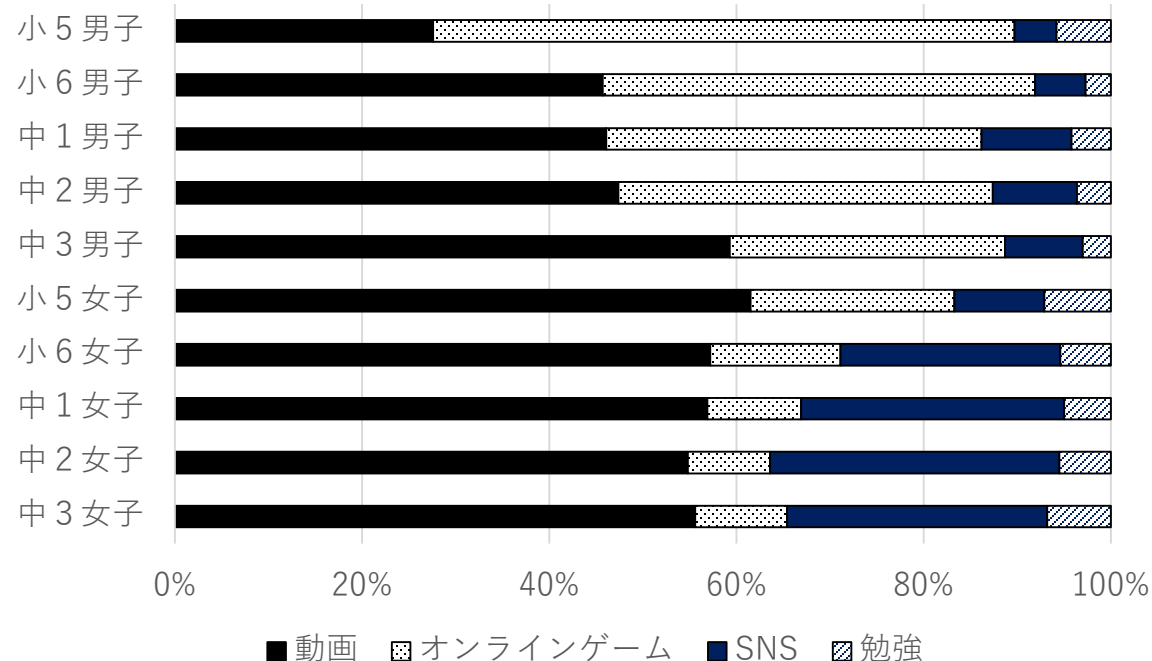
※令和2年1月調べ：令和元年度「パソコン・携帯電話・スマートフォン等に関するアンケート」

※令和2年7月調べ：「大阪市スマホサミット児童生徒用アンケート」

○自宅で一番すること

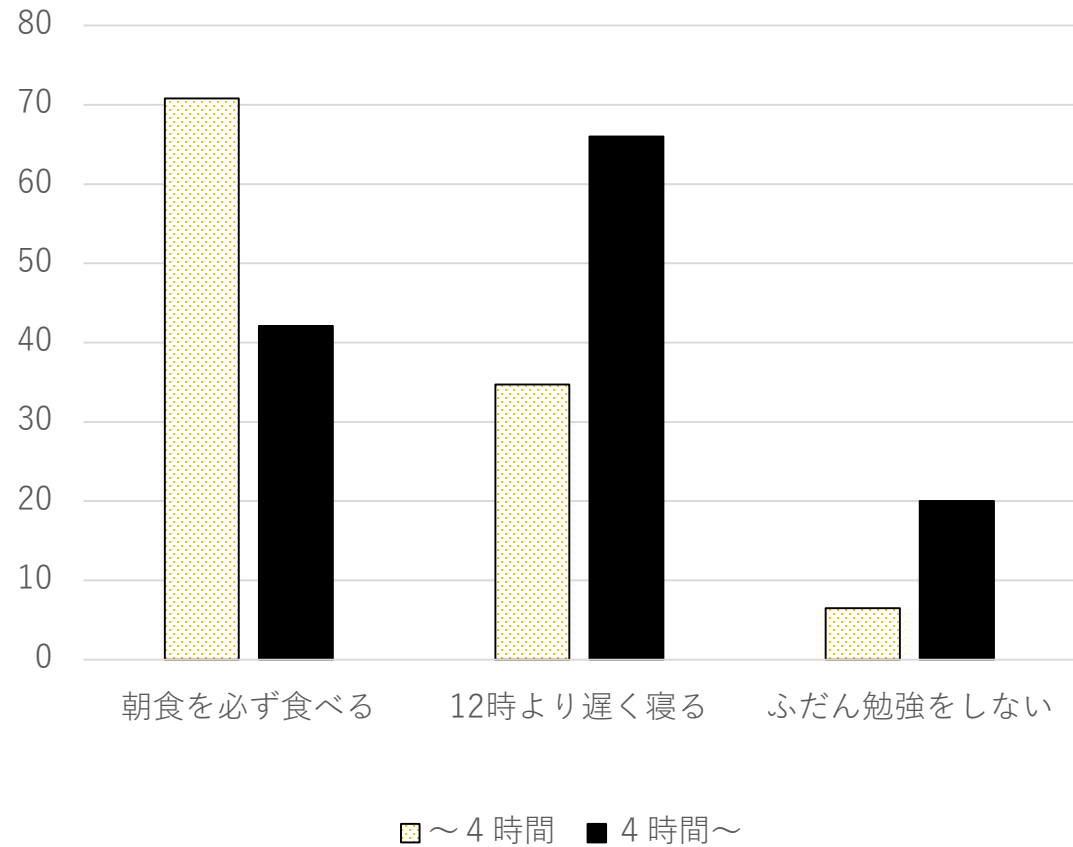


○ネットで一番利用するもの

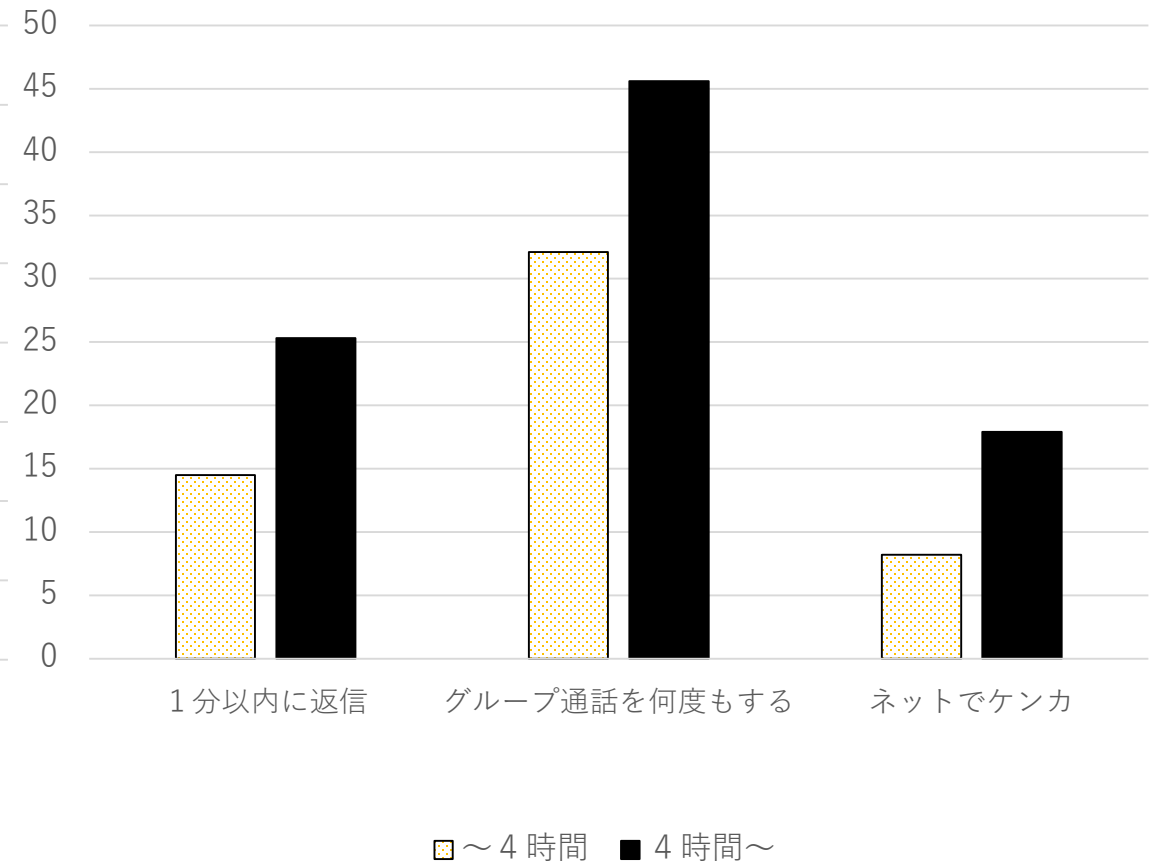


2. 利用時間による比較について

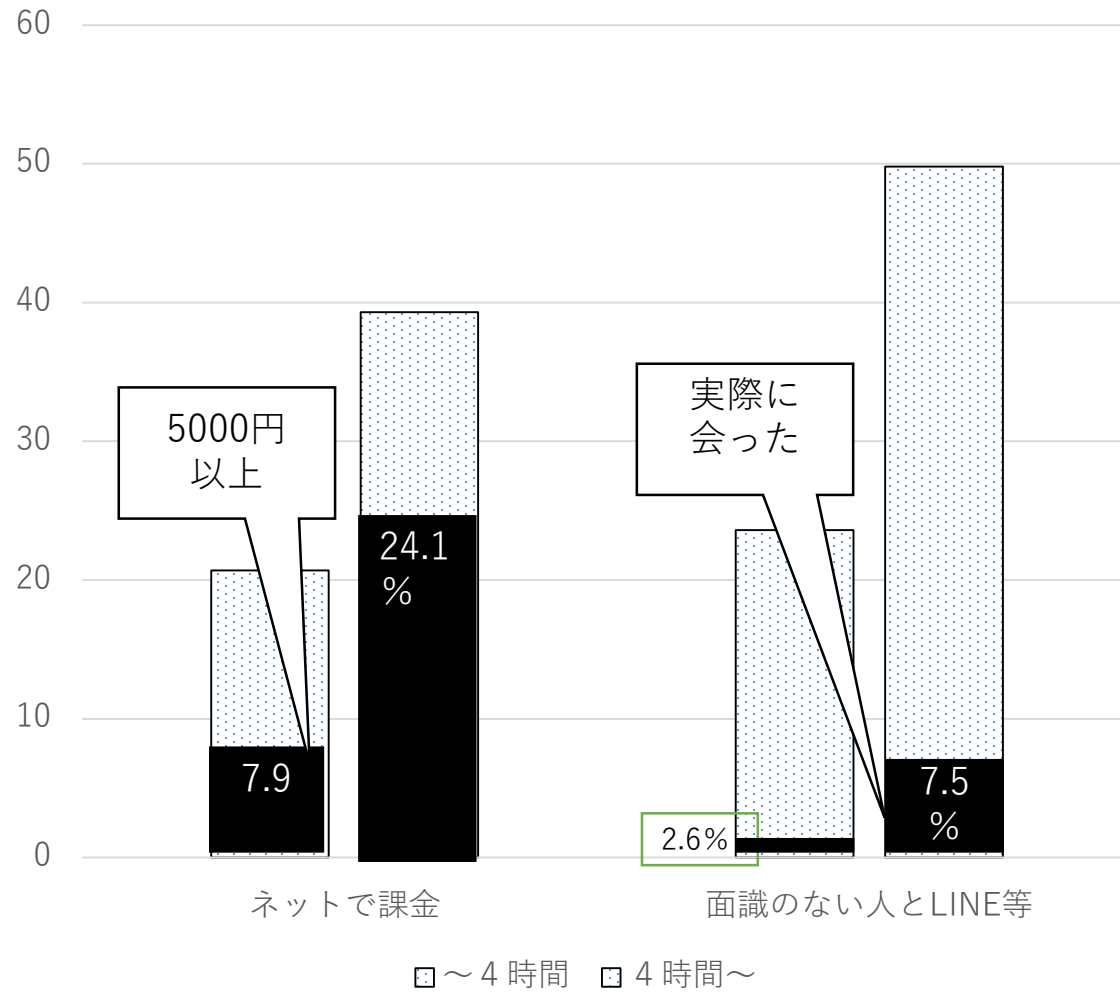
○生活習慣に与える影響



○SNS上でのやりとりの傾向



○ネット利用に伴う行動等について



大阪府におけるアンケート結果
(OSAKAスマホアンケート2020：小学生14,137人、中学生8,749人) から
もネットの利用時間が増えることで、
生活習慣に大きな影響を与えていること
がわかっている。

3. ネットへの依存傾向について

依存傾向チェック項目 (キンバリーヤング博士作成DQ)

- ① ネットに夢中と感じる
- ② 満足のため使用時間をもっと長時間したい
- ③ 中止を試みたがうまくいかないことがたびたびある
- ④ 時間を短くしようとするといライラする
- ⑤ 考えていたより長く続けてしまう
- ⑥ ネットで人間関係を台無しにしたことがある
- ⑦ 熱中を隠すため家族や先生に嘘をついたことがある
- ⑧ 絶望、不安から逃げるためにネットを使う

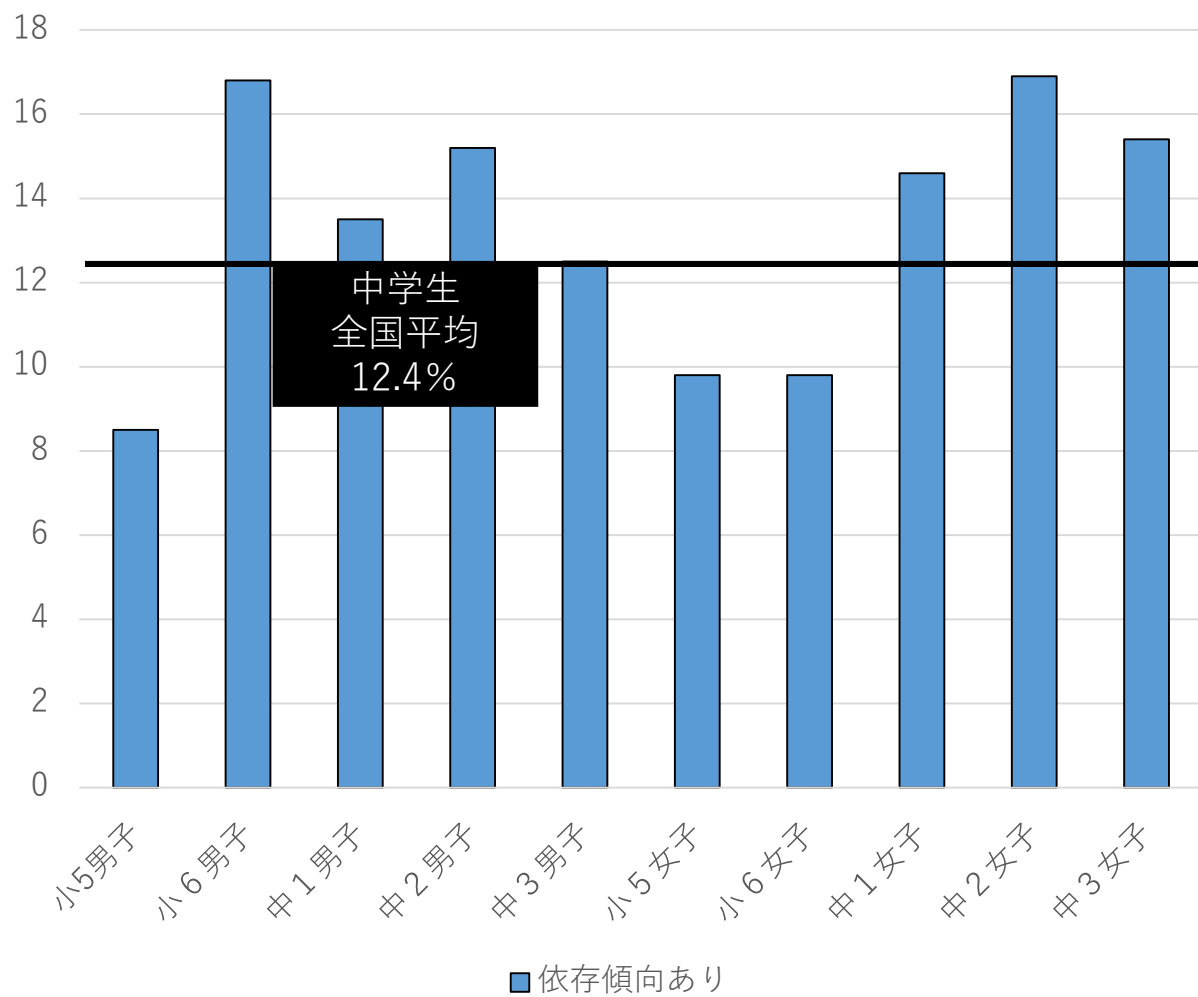
→該当が3～4個 危険、5個以上で依存傾向あり

ネット依存全国調査 (※)

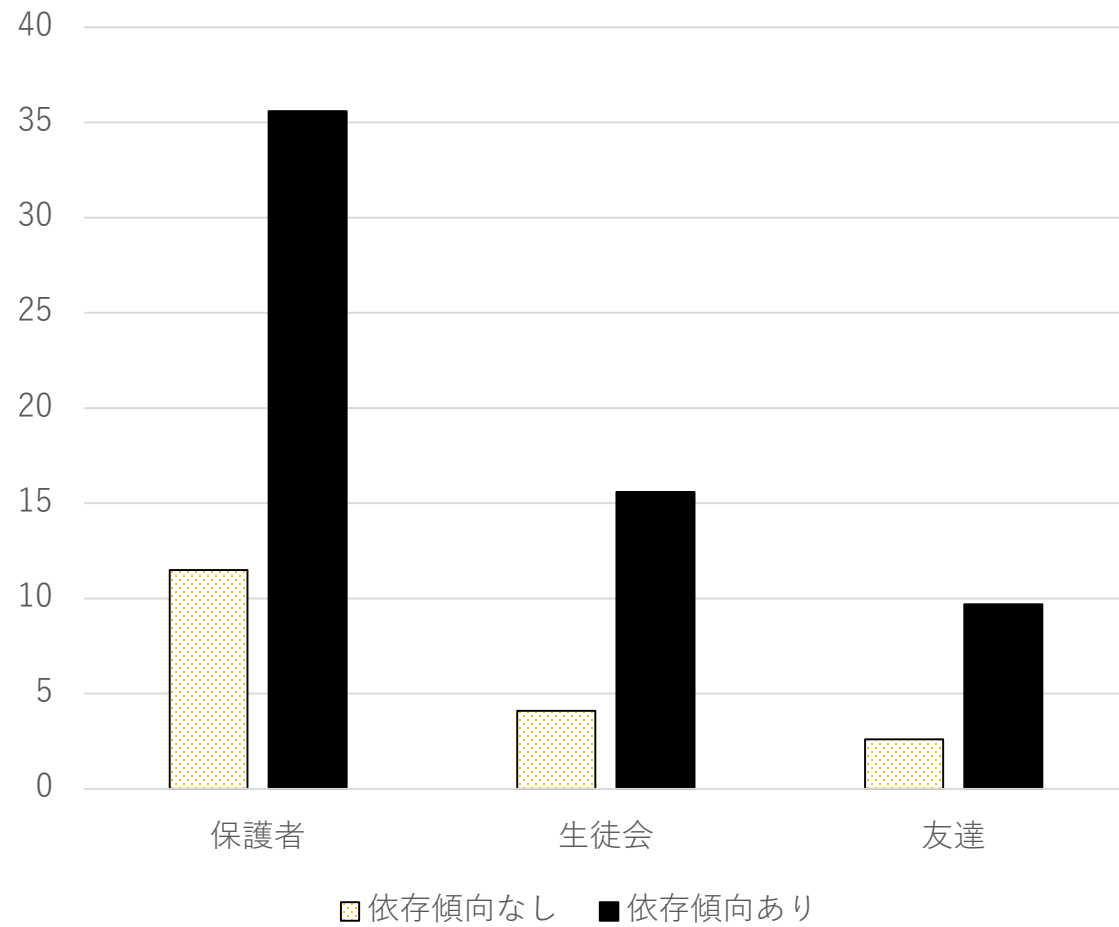
	中学	高校
2012年	6.0%	9.4%
2018年	12.4%	16.0%

※調査は厚生労働省研究班による

○依存傾向のある児童生徒の割合

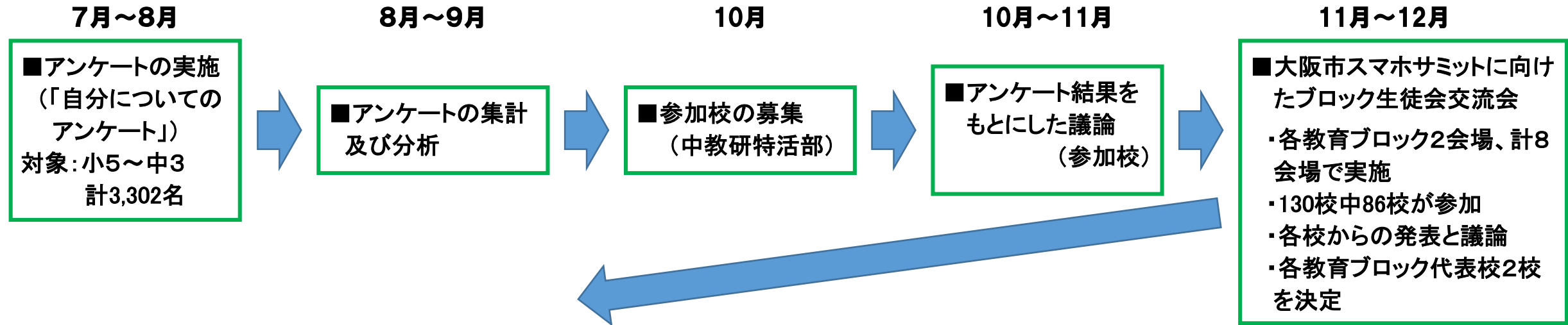


○ルールを何度も破ると回答した割合



大阪市スマホサミット報告

【当日までの流れ】



【令和3年1月23日 大阪市スマホサミット】

テーマ「スマホの依存性について」

ブロック生徒会交流会で話し合ったことについて報告し、その内容をもとに議論

- ・各教育ブロックの代表校8校が参加
- ・兵庫県立大学ソーシャルメディア研究会の協力（准教授及び学生）
- ・大阪府警察本部生活安全部より「スマホの危険性について」講話
- ・大阪市PTA協議会代表、大阪市教育委員会事務局代表の参加

【生徒からの提言】

①行政・企業へ

- ★一方的に規制しないでほしい
- ★SNS誹謗中傷対策の法律が必要
- ★課金の年齢制限が必要
- ★依存症対策アプリを作してほしい

②保護者へ

- ★否定したり勝手に見たり、しないでほしい
- ★子どもと話し合してほしい
- ★スマホの所持は判断力についてから与える方がいい

③先生・学校へ

- ★定期的にアンケートをしたい
- ★スマホについて学びたい
- ★スマホの持込みはまだ早い

④自分たちへ

- ★お互いに注意しあう
- ★啓発ポスターやスマホ新聞を作って、みんなに伝えたい
- ★スマホの功罪を考える

◎大阪市スマホサミットでの生徒の意見

- ・ 一方的に否定したり規制したりしないでほしい。しかし、不安は感じている。
- ・ ルールは必要だと思うが、自分たちの考えも聞いて、ルールのことを考えてほしい。
- ・ しっかり話し合うことが必要。
- ・ まだ自分たちに判断できる力はない。しっかり判断できるように学びたい。
- ・ 学校への持込みは、しっかり判断できるようになってからの方がいい。

今後の方向性について

これまでの調査結果や大阪市スマホサミット等を踏まえ、次の2点を支援する取組を進める。

- ① 児童生徒自身が携帯やスマホ等の使用について、判断することのできる力を身に着ける。
- ② 各学校において、児童生徒や保護者の議論を重ね、実態に応じた独自のルールを策定する。

【検討会議における具体的な議論及び取組】

★ 実態把握(使用状況及び生活習慣、健康との関連等) ➡ アンケートの実施及び分析

★ 実態把握から得た課題に対する取組の検討(健康への影響、不登校との関連等)

★ 情報モラル教育、情報リテラシー教育担当との連携及び情報共有

★ 議論する場の設定(大阪市スマホサミットの継続開催)

★ 生徒からの発信(大阪市スマホサミット参加校作成による新聞の発行等)

★ 保護者への働きかけ(大阪市PTA協議会との連携等)

★ 持込みについて大阪市の方向性の提示 ➡ 各小中学校への通知